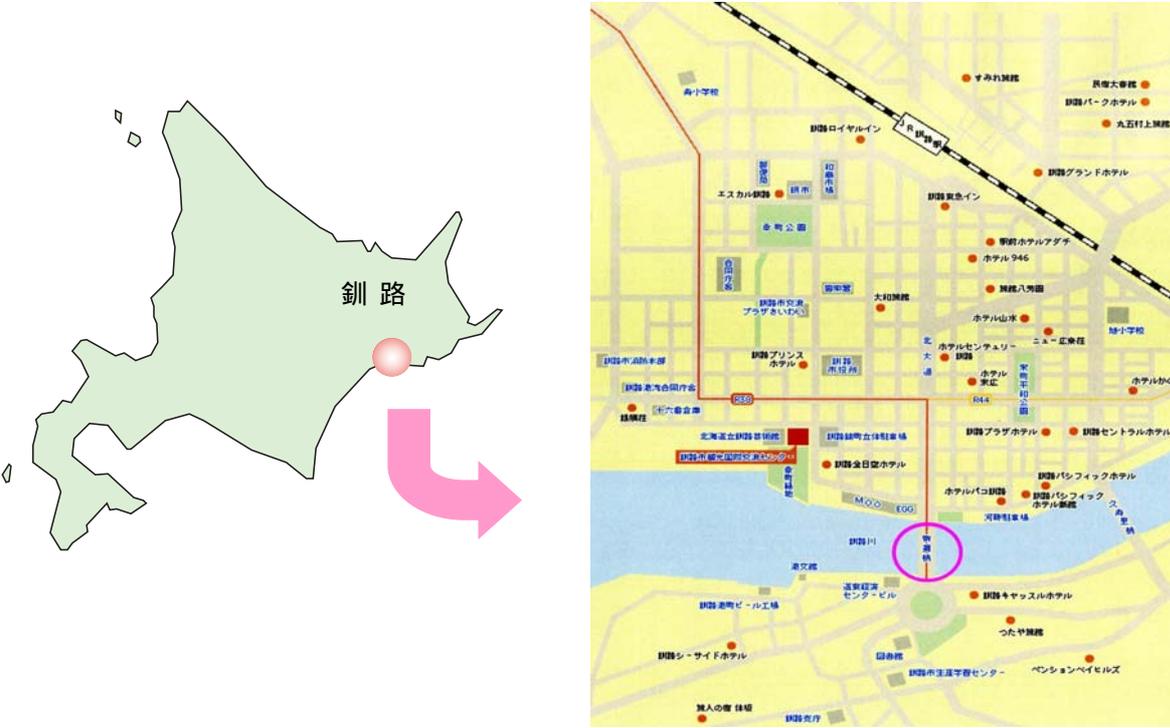


観光社会資本の事例

テーマ	霧中に浮かぶ「一般国道38号 <small>ぬさまい</small> 幣舞橋」と四季の像
【施設の状況写真】	
	
釧路市街中心部を結ぶ大動脈。橋周辺はベイエリアとして様々な施設があり賑わいをみせます。	夜には街路灯に照らされるとともにライトアップされエキゾチックな幻想的風景を演出します。
【施設の利用写真】	
	
高欄には現代日本の彫刻界を代表する4人の彫刻家による「四季の像」があり観光客の目を楽しませます。	河畔は歌碑のある河畔広場や遊歩道となっており、橋をバックに記念撮影する観光客も多い。
【観光資源としての利用状況】	
<p>釧路市内の一般国道38号釧路川に架かる<small>ぬさまい</small>幣舞橋は、観光拠点である釧路市中心街に近く、橋周辺はベイエリアとして市民と観光客が「観る・食べる・買う・遊ぶ・憩う」を同時に体験できる都市型観光施設「MOO」をはじめ、歌碑のある幣舞河畔広場や花時計などの散策の見所に富んでいます。</p> <p>また、幣舞橋の風景は釧路十景になっており、晩秋の太平洋を背景に空全体を紅に染める夕日や夏にうっすらと霧中に浮かぶ橋影と街路灯は日本ではここだけでしか見られない幻想的な風景となっています。</p>	

テーマ	ぬさまい 霧中に浮かぶ「一般国道38号 幣舞橋」と四季の像
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 一般国道38号 幣舞橋(ぬさまいばし)</p> <p>所在地 北海道釧路市北大通1丁目</p> <p>事業名 道路事業</p> <p>事業主体 北海道開発局</p> <p>事業期間 昭和50年～昭和52年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>交通円滑化効果</p> <p>幣舞橋は明治33年に初代橋が架かり、その後現在の5代目橋までの間、釧路の主要交通路として機能しています。特に4代目橋は昭和3年に道内で初めての鉄筋コンクリートによる永久橋として北海道3大名橋の一つに数えられています。その後昭和30年代の高度成長による交通量の増大と船の衝突による橋桁の損傷により現在の橋に架け替えられ、市街中心部と地域産業拠点とを結ぶ大動脈として機能しています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 釧路市観光振興室</p> <p>http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/kankou/data/d101.html</p>	